

2023.3.18 令和4年度 ぼちぼちの会学習会・交流会の報告

本年度の学習・交流会を下記の要綱で実施しました。

記

◎日時：令和5年3月18日（土） 13:30～16:00

◎場所：福岡市立当仁公民館（福岡市中央区唐人町3丁目1-11）

（駐車場の関係でなるべく公共交通機関をご利用ください）

◎内容：

第1部：講師：子どもアドボカシー福岡理事、弁護士 佐川民さん

講演テーマ「子どもの声に耳を傾けて」 13:30～15:00

アドボカシーとは

子どもは自分のことに関して自由に意見を表明することができる権利、意見表明権を持っています。大人は子どもの声に耳を傾け、思いや意見を表明できるように支えることが必要です。子どもが意見表明できるように一緒に考え、子どもの意見表明を支援し、代弁すること、これが子どもアドボカシーです。

子どもアドボカシーセンター福岡は子どもアドボカシーを通して、子どもたちが尊重される社会を目指して活動しています。

声が届きづらい社会で子どもの権利を守る

第2部：参加団体報告・参加者同士の交流・情報交換 15:10～15:50

次年度の活動・連絡等

15:50～16:00

参加団体（保護者の会）

ぼちぼちの会（南区）ステップスクール当仁（中央区）でこぼこの会（西区）

ひだまりの会（西区）ひまわりの会（西区）えがおの会（筑紫地区）ほか



ぼちぼちの会

主催 ぼちぼちの会 <http://bochibochinokai.com/>

福岡市家庭の教育力パワーアップ事業助成金交付事業

今回の交流会は感染予防対策の観点から会場とオンラインの参加の2つの方法で実施させていただきました。当日は教員、保護者、カウンセラー、SSW、行政関係など30名以上の参加がありメモを取りながら熱心に講師の先生の話聞いて研修を深めまていました。

第一部では子どもアドボカシー福岡理事で、学校の校則問題などに取り組む弁護士の佐川民さんに子どもアドボカシーの内容・活動や支援の現状を報告していただきました。具体的な話も多く、①子どもの立場になって考える②子どもの声を聴くとは③子どもの権利条

約の意見表明権を保障する④子どもの利益が第一次的に考慮される⑤4つのアドボカシー
 ⑥誰が子どもの声を聴くのかなど、初めて聞く内容も多く学習を深められたと思います。講演の後、質疑応答では参加者の具体的な経験や意見など今後の考え方の参考になったと思います。佐川先生、大変ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。



子どもアドボカシーと 子どもの権利

2023年3月18日
 子どもアドボカシーセンター福岡 理事
 弁護士 佐川 民

子どもアドボカシーとは？

「advocacy」（アドボカシー）
 ……「弁護」「擁護」

「子どもアドボカシー」

=子どもの声を聴くことから始まる

子どもの声を聴くとは？

- 1 意見形成
- 2 意見表明
- 3 フィードバック

子どもの声を聴くとは？

自分の気持ちや意見がはっきりわかる子どもは少ない

子どもの意見形成を支援する
 モヤモヤした気持ちに名前をつける
 自分の気持ちに気づく
 自分の気持ちを整理する

子どもの声を聴くとは？

子どもの意見表明の先には大人の受け止めが必要

フィードバック

大人（相手）がどう受け止めたのか説明
 意見が受け入れられないこともある

意見表明権とは？

【子どもの権利条約12条1項】

締約国は、自己の見解をまとめる力のある子どもに対して、その子どもに影響を与えるすべての事柄について自由に自己の見解を表明する権利を保障する。その際、子どもの見解が、その年齢および成熟に従い、正当に重視される。

なぜ意見表明権が大切なのか？

【子どもの権利条約3条1項】

子どもにかかわるすべての活動において、その活動が公的もしくは私的な社会福祉機関、裁判所、行政機関または立法機関によってなされたかどうかにかかわらず、**子どもの最善の利益**が第一次的に考慮される。

誰が子どもの声を聴くの？

子どもにかかわるすべての人が
 子どもの声を聴くことが大切
 4つのピースをそろえる

あらゆる子どもにアドボカシーの実現を

子どもの声を聴くことは、子どもと「対話」
 すること
 「説得」していないか？

あらゆる子どもにアドボカシーの実現を

フォーマルアドボカシーの土壌づくり
 「子どもの声を聴くこと」=「子どもの権利」を守ること
 学校、施設、地域に子どもの権利を浸透させる

 子どもアドボカイトの必要性の理解

ぼちぼちの会学習会・交流会 感想

(講師 佐川 民 さん ～子どものアドボカシーセンター福岡～)

- 大変勉強になりました。学校や教育委員会には、子どもの人権についてももっともっと考えてほしいとあらためて思いました。
- 先生の本音がきけて良かった。そこからどう対話に結びつけたらいいのかと思いました。不登校の親として、当事者の話は共感できました。
- ほんとうに勉強になりました。アドボカシーも大切だと思うけれど、今日の皆様のお話を伺っていると教育現場の絶対人数の不足が問題であると感じます。教育に人が配されていないために、外部の良心ある人々が子どもを囲むように組織を作ろうとするのはあたりまえかもしれませんが、根本的な解決方法は何だろうかと思ひもします。また、学校って権力の場だなあとも思います。現場の方がいくら良心あっても権力をつかわないとおさまらないと思うとやりきれない思いもあります。
- 本日は、貴重なお話を伺い感謝しております。昨年1月より起立性調節障害になった息子は今月中学を卒業しました。4月からは、高校へ進学予定ですが、まだまだ不安があります。今後ともアドバイスや学習の機会がありましたら是非参加させていただきたいと思っております。ありがとうございました。関係者の皆様感謝いたします。
- とても勉強になりました。意見を自由に言える場として(私が勝手に話していますが)とても良い場と思います。親も子供と共に成長していきたいです。
- アドボカシーという言葉は初めて聞き勉強になりました。これからますます必要になってくると思います。否定することなく、ありのままを受け入れる。聴く。心に刻み日々耳を傾けます。ありがとうございました。
- 今回は、保護者だけではなく、学校の先生も参加されていたので、保護者側、学校側の意見を聞くことができ、どちらも子どものことを真剣に考えられていると感じました。子どもアドボカシーについては、もっと学校に浸透していけたらと願っています。